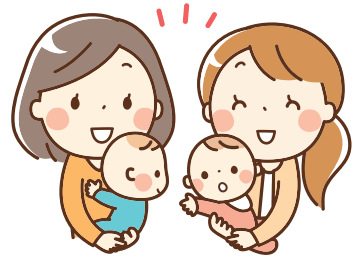




和田内 和美 議員 (新政会)



一般質問

子育て支援環境の充実について

子育て支援は重要な人口施策

市独自で第2子以降の保育料無償化を実施してきたが、第1子を含めた無償化を求める声も多く寄せられている。少子化が進行する中、子育て支援は出生や定住に関わる人口戦略上重要な政策であると考えます。

①第1子、特に0、2歳児の保育料負担が、就労や定住意向、本市の子育て環境への評価に与える影響をどのように認識しているのか。また、保護者ニーズや保育施設の経営実態、入所状況をどのように把握しているのか伺う。

②第1子を含む保育料無償化について、対象範囲、財源、実施時期をどのように考え、整理していくのか、検討の方向性を伺う。

③子ども遊び場整備について、候補地のイメージ作成および市民アンケートの具体的時期を伺う。また、アンケートの対象者をどのように設定し、子どもや保護者、保育・教育現場の声を踏まえ、利用ニーズや必要な機能、安全性等をどのように把握し、整備方針に反映していくのか伺う。

答 ①子育て支援策の充実、本市の子育て環境に対する評価や定住意向に一定の影響を与える可能性があると考えています。また、保護者ニーズは、相談時の意見や施設からの声を通じて把握し、経営実態や入所状況は、申込状況や定員充足率等により確認している。

②第1子を含む保育料無償化については、対象範囲や必要財源、財政負担の継続性について十分に見極める必要がある。また、保育士確保や受入体制を考慮し、国・県の動向等を踏まえ、総合的に検討していく考えである。

③現在、候補地の整理およびイメージ図の作成を進めている。令和8年度上半期中を目途に取り組んでおり、準備が整った段階で実施する。対象は未就学児・小学生の保護者に加え、教育・保育施設関係者とし、アンケート結果や財政状況を踏まえて整備場所を決定する。その後、子どもたちの意見聴取や現場の専門的視点も取り入れ、必要な機能や安全性等を検討していく。



瀬戸 三代 議員 (市民クラブ)



一般質問

コミュニティ・スクールについて

人づくりは学校づくり 学校づくりは地域づくり

私は議会において、コミュニティ・スクールの導入を提案してきたが、「要望が上がっていない」との理由から、導入には至っていない。そうした中で、今回、本制度が採用するに至った経緯について伺う。

また、学校運営協議会においては、会議の進め方、とりわけ「熟議の手法」が重要であると考えます。その上で、「コミュニティ・スクールマイスター及びコーディネーターの役割」、並びに「熟議の手法」について、教育委員会としてどのように捉えているのか、その見解を伺う。

答 本制度の採用に当たっては、コロナ禍により希薄化した学校と地域とのつながりを再構築したいという地域からの要望があったことに加え、全国的にコミュニティ・スクールの導入が進み、県内においても取組が進んでいることが背景にある。あわせて、少子化が進行する中で地域の多様な人材を活用し、幅広い考え方に触れる教育活動の重要性が高まっていることや、地域との協働により教職員の働き方改革を進める必要があることも、大きな要因となっている。

本制度の構築や取組の充実のためには、専門的知見を有するコミュニティ・スクール推進員の存在は非常に重要であると認識している。来年度は、既存活動における連携の整理及び充実を最優先としていることから、地域学校協働本部を設置せず、コーディネーターの設置は行わない予定である。ただし、今後の活動の進展に応じて、配置については検討課題であると考えている。

また、熟議の手法については、立場の異なる者が課題を共有し、熟慮と議論を重ねて解決策を導き出すことにより、地域とともにある学校づくりの当事者意識を醸成する核となるものであると考えている。学校、家庭、地域がどのような子どもを育てるのかという目標を共有することが重要である。こうした考えのもと、子どもたちを育む環境を構築していく取組みに対し、教育委員会としても伴走支援していきたいと考えている。